

日の丸は左に1%寄っている

私たちが正しいと思っている常識は、実は間違っていることがよくあります。たとえば、10円玉はどんな形をしているのでしょうか？

そう、「丸」、ですね。でも、ちよつとまっすぐな形ではない。本当にそうですか？

10円玉は、「四角」でもあるのです。横から見たら、長方形の形をしていますよね。さらに、「球体」でもあります。指ではじいてください。ほら、高速回転すれば球になつてしまいます。

人間は、思い込みの動物です。見たままの姿に捉われています。側面から観察することができないのです。ものごとを立体的に見る視点を持っている人はなかなかいません。逆に言うと、その視点を持っているだけで人とは違った人生を送ることができます。

もうひとつ質問しましょう。

あなたは、日本の国旗である日の丸が、中央ではなく、実は左側に1%、位置がずれているをご存知ですか？

「ええっ！」驚くあなたの顔が目には浮かびます。あなたは、日本に生まれ、日本に育ってきた日本人ではないですか。(もちろん、この本の読者の中には外国人の方もいらっしゃることは重々承知しております)

日本で何十年間も暮らしていて、何千回も日の丸の旗を見ているのにもかかわらず、知らないことはたくさんあるのです。日本人でありながら、私たちは、国旗ひとつ、満足に知ってはいないのです。

ちなみに、人間の目は、正中線に丸い図形を置かれると、左右対称にもかかわらず、違和感を覚えるそうです。そこで、日の丸の図形を左側に1%ずらして、微調整をしているのです。

自分だけが正しいと思つてはいけません。常識がすべてではない。既成の価値観で物事を判断してはいけません。

そんなことを、この日の丸の話は教えてくれます。物事について、すべて理解した、ということはありません。あなたは、たったの一部がわかっただけなのです。

5は2+3だけじゃない

2+3はいくつですか？

はい、答えは「5」です。それ以外の答えはありません。

これは、小学校1年生の算数です。間違えた人はいませんよね。1億人の誰が解いても、答えは、5です。さて、では、次の問題です。

2+3は5ですが、では、何と何を足したら「5」になりますか？

3+2、1+4も5。2・5+2、5も5です。

さらに言うなら、6-1も5です。1×5も5です。10割る2も5です。ルート25も5です。あげていたらキリがありませんね。

答えは、無限にあるのです。

「2+3」の答えは「5」1つしかありませんが、「5」を導き出す計算式は無限にあるのです。一番いいやり方もなければ、一番ダメなやり方もない。それが正解です。こんなにたくさんさんの正しい作り方があるなんて、「5」ってすごいと思いませんか？ 私たちの存在そのものも、実は、これとよく似ています。

たまたま、外見が野暮ったくても、仕事ができなくても、それはあなたという人間を構成する要素のひとつに過ぎません。心が優しいこと、仕事に丁寧に取り組むこと、健康なこと……目を向けてみれば、あなたを形づくっているたくさんさんの良いところがあるのです。

あなた自身が数字の5なのです。5を導く計算式が、2+3、1+4もあれば6-1などたくさんあるように、あなたの存在を称える表現は無限にあります。それなのに、なぜたったひとつの否定的な表現に人生を投げ出すほど落ち込むのでしょうか？ 5つて数字、すばらしいですよ。いくらでも導き出す可能性があるので、5つて数字、6だって7だって、他のすべての数字も、きっと、すばらしいんです。「他の数字」というのは、もちろん、あなたの周りにいる人たちのことです。

あなたは、どんな数字なのか、その数は、どんな可能性を持っているのか。

一緒に探していきましょう。

ちなみにこの「2+3は5。でも、5は2+3だけじゃない」という発想は、実は、『風の子』という児童劇団で上演されていた演劇タイトルです。なかなか哲学的です。

黄金の尻

「黄金の尻」って、知っていますか？

イタリアの名門自動車メーカー、アルファロメオ社では、新型車のテスト走行を取り仕切るテストドライバーを、敬意を込めて「黄金の尻」と呼び習わしています。

会社から全幅の信頼を寄せられたデザイナーからエンジニア、各部門の精鋭が粋を凝らして作り上げる新型車。「黄金の尻」はその最終段階でテストカーに乗り込み、確かな目で細部のチェックをするのと同時に、データではわからない微妙な走行性をまさに「お尻」で感じて、調整を指示するのです。

この「黄金の尻」は、誰よりも優れた感覚の持ち主と認められたたったひとりです。ときには、社長よりも発言権を持っています。

アルファロメオ社では、「黄金の尻」の試乗に至る前の段階でも、各部門はそれぞれのエキスパートに完全に任せられ、余計な多数決は一切行われません。

その結果、先鋭的でキャラの立った、世界中の人々から熱烈に愛される名車が数多く作られてきたのです。同社のエンジンの設計主任に、

「エンジンに大切なのはどんな要素でしょうか？」と質問したところ、

「スポーツする魂(クオーレ スポルティーバ)」という答えが返ってきました。

この人はミラノ工科大学の博士号を持つ工学博士でもあります。そんな超理系エンジニアの口から出てくる言葉にしては、ずいぶん感覚的な答えです。

しかし、これが、アルファロメオ車の魅力なのかもしれません。

振り返ってみると、私たちは、小学校以来、多数決の理論を教えられてきました。しかし、これは常に正しいのでしょうか？

多数決がもつとも効率的な結論の導き方であることは確かです。しかし、多数決は、時として豊かな発想や提案を「瘦せた」ものにすりかえてしまうことがあるのです。

中小企業が、その存在価値を示すために必要な独創的な製品・サービスを生み出すとしたとき、もつとも手に負えない敵は、多数決に頼ろうとする内なる企業心理なのかもしれません。中小企業がその独自性を「売り」にしようとするなら、ときには独断専行、強いリーダーシップも必要なのです。「とんがり」が魅力を生むのです。

あなたの会社に「黄金の尻」はいますか？

ブーメランは投げなければ手元にもどらない

子どもの頃、駄菓子屋ではブーメランのおモチャが売られていました。

当時、『秘密戦隊ゴレンジャー』のミドレンジャーがこれを武器として使っていたせいか、子どもたちの間ではブーメランは武器として認識されていましたが、本当は、ブーメランは武器じゃありません。

「く」の字型で、投げるとクルクルと回転しながら円を描いて戻ってきます。有名なのは、オーストラリアのアボリジニ族が使っていたもの。当初は狩りの道具と考えられていましたが、実際には遊具の一種として使われていたようです。

しかし、駄菓子屋で売られていたものは、プラスチック製のちやちな作りで、飛ばしても風の影響を受けて、なかなか期待したようには手元に戻ってきませんでした。木製の少し高価なものを購入すると、しっかりとした重みがあるせいで、ちゃんと手元に戻ってきました。これが楽しくて、何度も何度も投げて遊びました。練習すればするほど、きれいな弧を描いて手元に戻ってくるようになりました。

訓練を重ねるごとに、ブーメランは確実に手元に戻ってきます。自分なりの法則を見つけ出し、力を込めて投げたものが、弧を描いて帰ってくる現象は楽しいものです。

単純な遊びですが、何度も練習するうちに学んだことがあります。それは、ブーメランは投げなければ手元に戻ってくることはない、という当たり前のこと。

手元にあるんだからそのまま投げないでいればいい。そう考えてしまえば、ブーメランは空中を飛ぶことなく、手の中にあるままです。安全なまま、しかし宙を切って弧を描く醍醐味も知らず、何も生み出さないで手の中に残っています。

自分のやりたいことがあったら、まず投げてみることで

そのうちに空気を巻き込み、揚力を手に入れるコツを身につけるはず。キャッチする喜びや、ワクワクするような気分を連れて、ブーメランは戻ってきます。

これって、何かに似ていませんか？ あなたなら、ブーメランを何にたとえますか？ どこかに投資したお金？ 誰かに向けた親切？ 頑張った勉強？ 思い切って働きかけたコミュニケーション？

投げる前のブーメランと、一度投げて戻ってきたブーメラン。空を切って広い空間を飛んだ経験値分、同じ物体だけでも、実は全然違うものなのです。

オトナは時間旅行ができる

年をとるのは怖いですか？ 一〇代のころ、三〇代の人を見たら、とてつもなく大人に思えました。四〇代なんて、もうお爺ちゃんだ、なんて失礼にも思ったものでした。たとえ世の中に四〇歳、五〇歳、一〇〇歳の人がいようが、自分の若さは永遠に続くように感じていました。いやあ、若いって恐ろしい。

今にして思えば、三〇歳なんてヒヨッコ同然。

そうしてつくづく思うのは、年をとるってなんて楽しいことなんだろうという実感。年を取ることの最高の喜びは、「時間旅行ができる」ということです。

「えっ、時間旅行？」はい、ただし、タイムマシンはいりません。

心の年代を遡ることによって、自由に現在と過去とを行き来できるのです。

一〇代の少年は、二十歳になったときの自分の気持ちはまるで想像できません。

また、二十歳の青年は、三〇歳になったときの勤め人の気持ちはまるでわかりません。

ところが、五〇歳ほどの私は、ゼロ歳から今の歳まで、一瞬にしてタイムレポーターできるのです。それは、1歳から、ずっと、この歳まで生きてきたからです。

年をとるに従って経験値は上がり、学んだことも増えます。学びは体験することによつてしか身につきません。学ぶからこそ、人生は楽しく豊かに充実していく。そのことがわかってくるのも、やっぱり年を重ねてきたから。

思い出だつて増えていきます。出会った人も、その人たちと話し、笑い、共に行動することも、別れることさえ、人生を彩るエッセンスとなります。生きれば生きるほど、人生は多彩に彩られていくはずです。苦しみ・悲しみの記憶も時を経ることで醸成され、コクを増していくでしょう。許せなかった出来事もやがて許せるようになり、憎んだ人も懐かしく思い出すこともあるでしょう。

大人になるのは過去の出来事をすべて受け入れ、自由になることなのです。そんなふう年をとることを楽しんでいける人は、年を重ねるごとに人生の達人として生き生きと活力を放つようになっていくはずですよ。

未来のあなた自身に目を向けたとき、今、この時点がいちばん若いんだってことに気づいていますか？ そのことに気づいたら、失ってしまった過去を嘆くことがいかに無意味かわかるはずですよ。私は、これからも年をとっていくのが楽しみです。